

第1章 岡谷市の環境の状況

1. 岡谷市の位置・地勢

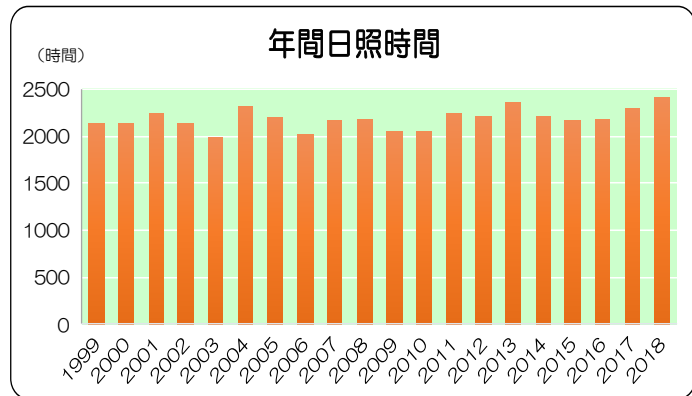
◇ 本市は、長野県のほぼ中央、諏訪湖の西岸に位置し、遠くは富士山、八ヶ岳連峰を望む、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な都市です。面積は 85.10 km²で、人口集中地区面積は 11.3 km²、市域は東西 7.3 km、南北 16.7 kmに広がっており、7割近くを森林が占めています。

地質は、内部に火山岩をもち、その表面はきわめて厚いローム層で覆われており、諏訪湖岸の一部に沖積層が見られます。

気候は、内陸気候の特性で年間を通じて降水量が少なく、また気温の年較差や日較差の大きいことが特徴です。空気は乾燥し、日射量は国内トップクラスで、太陽光、太陽熱の有効利用に適していることを示しています。

◇ 本市は、諏訪湖、天竜川をはじめ、横河川、塚間川、十四瀬川、大川などがあり、豊かな水環境に恵まれています。塩尻峠周辺は広葉樹と針葉樹の混交林が広がっており、多くの野鳥が観察できます。この「塩嶺の小鳥のさえずり*」は、「残したい“日本の音風景100選” *」に選ばれています。

諏訪湖は、標高 759.3m、周囲約 16 km、面積 13.3km²の長野県でもっとも大きな湖であり、コイ、フナ、ワカサギなどの魚類も豊富です。諏訪湖から流れ出す天竜川は、遠く静岡県浜松市に至り、太平洋に注いでいます。



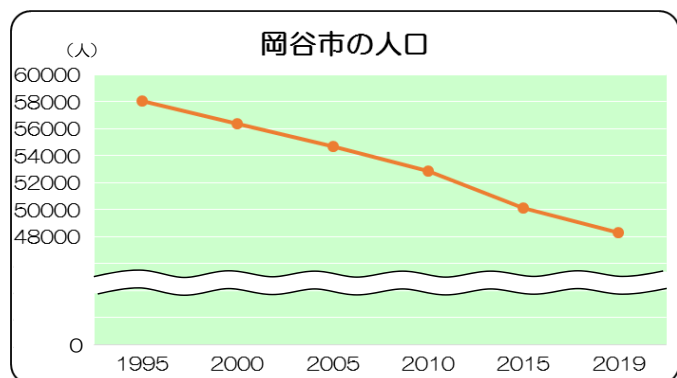
気象庁統計データ (諏訪測候所)

出典：気象庁ホームページ

2. 交通および社会構成

◇ 本市は、各種交通の要衝となっており、高速交通体系は中央自動車道西宮線、長野自動車道から構成されており、岡谷インターチェンジを介して首都圏、中京圏、北陸圏と結ばれています。また幹線道路として、国道 20 号、国道 20 号バイパス、国道 142 号バイパスや県道下諏訪辰野線、県道岡谷茅野線などが市内を走っています。鉄道は中央東線が走り、飯田線の分岐点となっています。

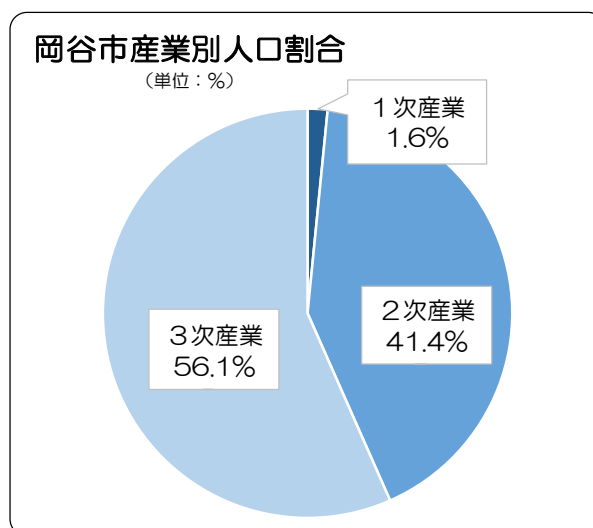
◇ 本市の人口は、昭和 55 (1980) 年の約 62,000 人をピークとしてその後減少傾向を示し、令和元 (2019) 年 10 月 1 日現在は 48,283 人となっています。



出典：総務省統計局 国勢調査

(2019年のみ長野県毎月人口異動調査)

◇ 産業別就業人口の割合（平成 27（2015）年国勢調査）は、第 1 次産業 1.6%、第 2 次産業が 41.4%、第 3 次産業が 56.1% となっています。平成 12（2000）年国勢調査では工業都市を反映して、第 2 次産業が主力を占めていましたが、平成 17（2005）年の国勢調査から第 3 次産業がトップとなっております。



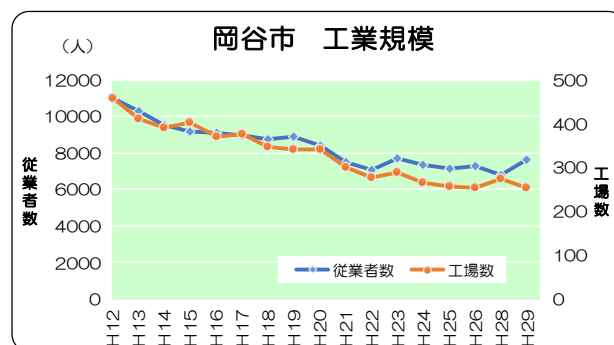
出展：2015 年国勢調査

◇ 農家数は、昭和 35（1960）年以降、減少傾向を示しており、農家人口は平成 17（2005）年が 604 人、平成 22（2010）年が 449 人、平成 27（2015）年には、295 人となっています。（各年農業センサス）

◇ 工業は、明治時代中期から昭和初期にかけて「シルク岡谷」として世界にその名を馳せ、第二次世界大戦後は時計やカメラなどの精密工業都市として発展を続けてきました。

近年では、経済のグローバル化の進展、ものづくり産業の空洞化、環境問題への対策など厳しさを増しています。

こうした中、『岡谷市工業活性化計画』を策定し、社会経済の変化、企業の経営戦略の再編を踏まえて、既存企業の構造転換と新たな産業基盤の構築に向けて、工業集積都市岡谷の活性化に取り組む施策を展開しています。

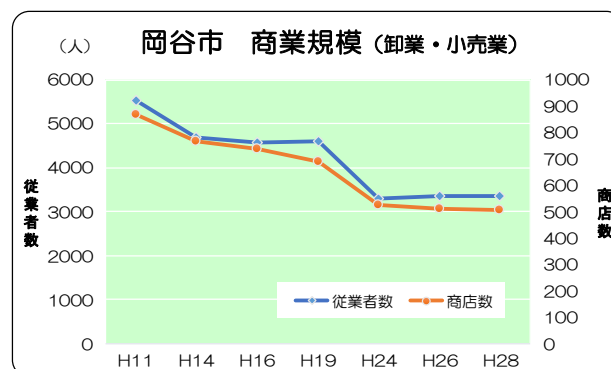


出展：工業統計調査

（対象：従業者数 4 人以上）

◇ 商業の現状は、少子高齢化、核家族化に伴う消費者ニーズの多様化、個人商店の後継者不足、インターネットを利用した商品購入の急速な浸透により大きく変化をしており、特に小売業においては大変厳しい状況となっております。

こうした中、『岡谷市商業活性化計画』を策定し、商業者や商業会・商業団体・商工会議所・行政が一体となって商業の活性化と魅力の創出に向けた取組を推進しています。



出典：商業統計調査

※平成 16 年は簡易調査

※平成 24 年及び平成 28 年は経済センサス調査

3. 第3次岡谷市環境基本計画の総括

『第3次岡谷市環境基本計画』（平成27（2015）年～令和元（2019）年）の各施策および基本目標について、その実態と指標の結果を総括します。



基本目標 1. かけがえのない地球環境を守るまち

《地球環境の保全》

- (1) 地球温暖化*防止のために市民が手軽にできる緑のカーテン*事業の参加者は、目標値を大きく上回りました。日常の暮らしの中における地球環境の保全への意識が高まっていると思われます。(図1)
- (2) 環境配慮に関連した制度資金のあっせん件数は、わずかに増加していますが、目標値を下回っています。再生可能エネルギー*設備の普及などを図るため、当制度の周知による支援の継続や環境負荷*への対応を啓発していく必要があります。
- (3) 育林（間伐など）によるCO₂吸収量は目標値を下回りました。制度の変更などによる影響が要因ですが、引き続き育林・植林による適正な管理を行うことで山林を保全し、CO₂を吸収する樹木を守り育てていかなければなりません。(図2)

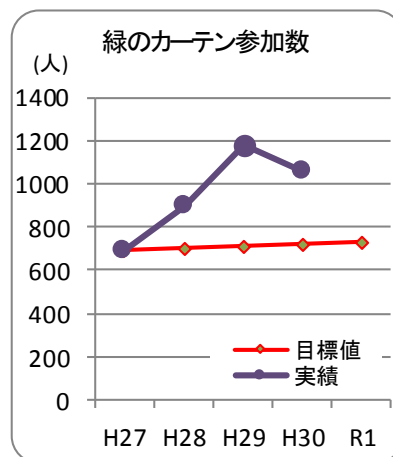


図1



基本目標 2. 豊かな自然とふれあえるまち

《自然環境の保全》

- (1) 子どもが参加する環境団体数については、目標値を大きく下回っています。自然環境体験、自然環境学習は、これからの世代を担う子どもたちに自然の大切さを伝える上で必要な取組ですので、子どもが参加する環境団体などが魅力ある活動を企画し、機会の創出を推進していく必要があります。
- (2) 森林の適正管理は、水害や土砂災害を防止するだけでなく、豊かな生態系を維持することにつながります。制度の変更などにより森林の間伐面積は目標値を下回っていますが、森林保全への取組は着実に進んでいます。
- (3) 貴重な水資源の有効利用のため、市民一人ひとりに対する水資源の重要性についての啓発活動として、水の大切さを学ぶ水の探検隊（水道施設の見学会）を実施しました。参加者数は目標に達しており、多くの方が水の大切さを学ぶことができました。

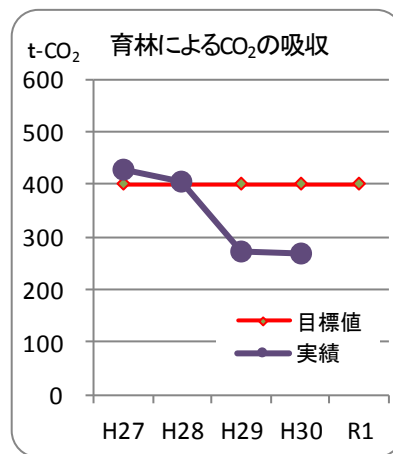


図2



基本目標3. 安全で安心なすがすがしいまち

《生活環境の保全》

- (1) 野外焼却、不法投棄などの生活苦情通報件数は増加傾向にあり、目標値に到達していません。環境に対する意識が高まったことで、通報が増えたことも一因であると考えられますが、違法行為であることを認識していない、モラルの低さといった理由から発生している事例も多いことから、発生抑制のための啓発を充実させていくことが必要となります。(図3)
- (2) 塚間川などの河川の汚濁の程度を示すBOD*は、環境基準*を満たしており、良好な環境が保たれています。生活排水、工業排水の適正処理や、重大な水質汚濁につながる灯油などの漏えい防止に努め、現況を維持していくことが重要です。
- (3) 生活排水と雨水の分離、河川や諏訪湖の浄化などに大きく貢献している下水道ですが、ほぼ全戸で下水道に接続している状況です。

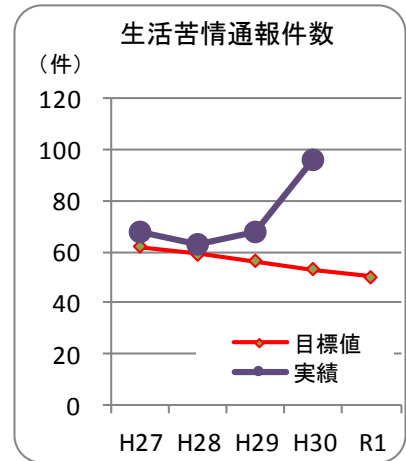


図3



基本目標4. ものを大切にすま

《循環型社会*の構築》

- (1) 燃やすごみの発生量は現在、ほぼ横ばいの状況です。今後、さらに燃やすごみ発生量を減少させるため、市民、事業者、行政が一体となって3R*を推進していく必要があります。
- (2) 一人1日あたりの生活ごみ排出量は計画期間当初より減少し、概ね目標値に達しているものの、近年はほぼ横ばいとなっています。今後も、市民一人ひとりが、「3R*の精神」を意識し、さらに生活ごみの排出量を抑制していくことが重要です。(図4)
- (3) 総ごみ量に占める資源物の割合である資源化率は目標値を下回りました。これは、民間事業者が設置した24時間受付の回収ボックスを利用される方が増えたことにより、資源物の総量把握ができない状況となったことによります。
目標値は下回っていますが、資源化に対する市民の意識は高まってきていると思われます。しかしながら、引き続き資源化の推進に向けた啓発活動や分別指導を行っていく必要があります。

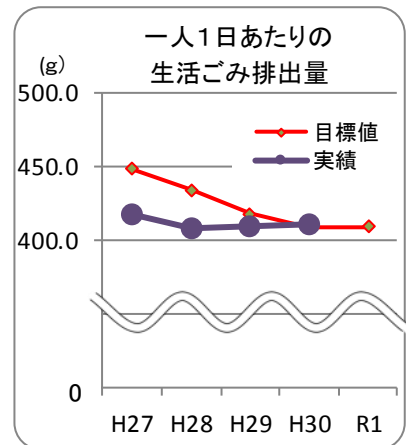


図4

基本目標5. 美しさと潤いのあるまち

《快適環境の形成》

(1) 『岡谷市都市計画マスタープラン*』、『岡谷市景観形成基本計画*』などに基づく、都市緑化などを推進してきましたが、市民アンケートによる、緑と水辺の創出に対する市民満足度は目標値を大きく下回っています。

市民のニーズなどを把握しながら、市民が実感できるような都市緑化、水辺の創出に取り組んでいかななくてはなりません。(図5)

(2) 本市では、景観形成に努め、美しい景観の創出を進めてきました。良好な景観に資する建築物などについては、目標値を上回っておりますが、景観に対する市民の意識向上のための啓発活動数は目標値に到達していないことから、今後は良好な都市景観を形成していくための啓発活動に力を入れていく必要があります。(図6)

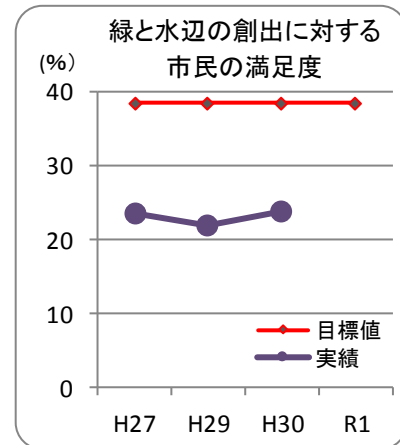


図5

基本目標6. みんなが環境保全に参加するまち

《参加と協働》

(1) 市民、事業者などの環境意識が高まってきましたが、環境イベントや清掃活動に参加したことが無いという声も聞かれることから、より多くの人に参加していただき、共に学び、活動ができる場を作り上げていくことが重要です。

市民、事業者、団体、行政などが様々な形で連携していくことにより、より良好な自然環境を次世代につないでいかなければなりません。

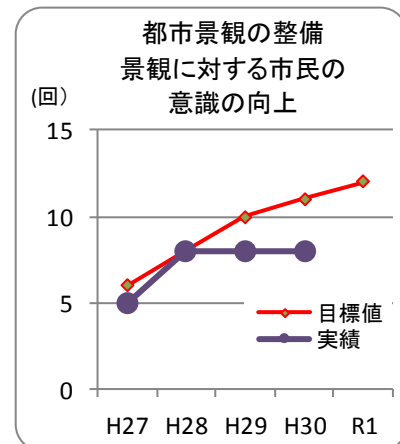


図6

*第3次岡谷市環境基本計画の「基本目標別、目標指標の推移(平成27(2016)年度～令和元(2019)年度)」は付属資料に添付

4. 市民の環境保全の意識

市民や小中学生および事業者の環境保全に対する意識についてアンケート調査を行い評価した結果、環境への問題意識や関心が明確になりました。

調査概要

●調査対象

- ・一般市民：住民基本台帳より 18 歳以上の方から無作為に抽出
- ・事業者：市内の事業者から無作為に抽出
- ・子ども：小学 5 年生、中学 2 年生の児童、生徒

●調査方法

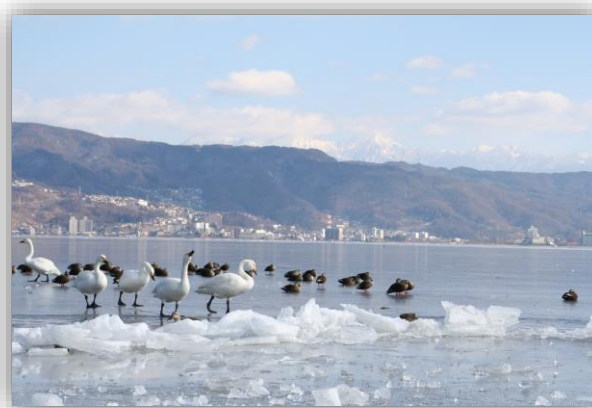
- ・一般市民：郵送配布、回収
- ・事業者：郵送配布、回収
- ・子ども：各校に配布、回収

●調査時期

令和元（2019）年 6 月

●回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
一般市民	1,000	339	33.9%
事業者	300	169	56.3%
子ども	847	786	92.8%



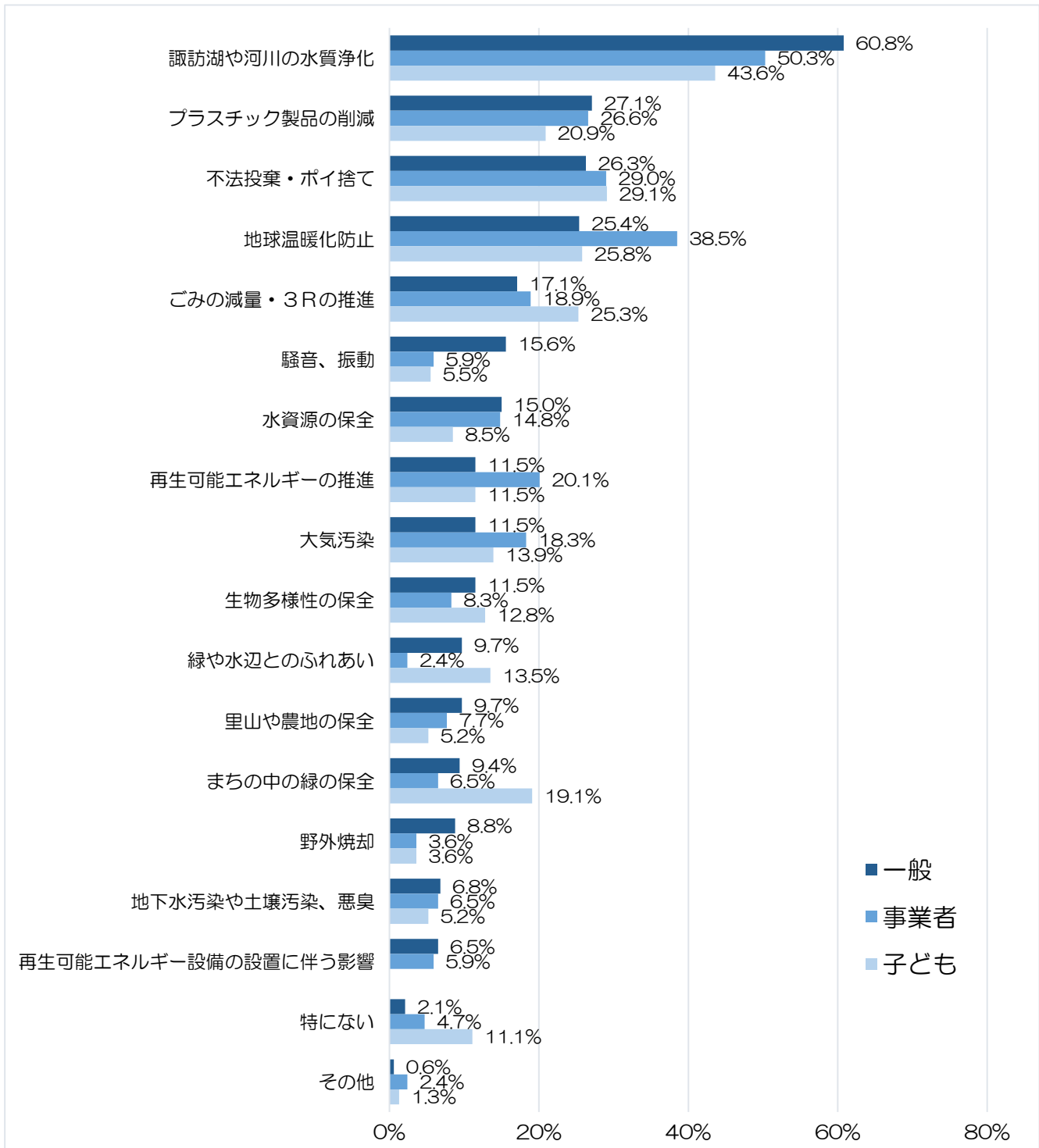


調査結果

(1) 環境問題への認識

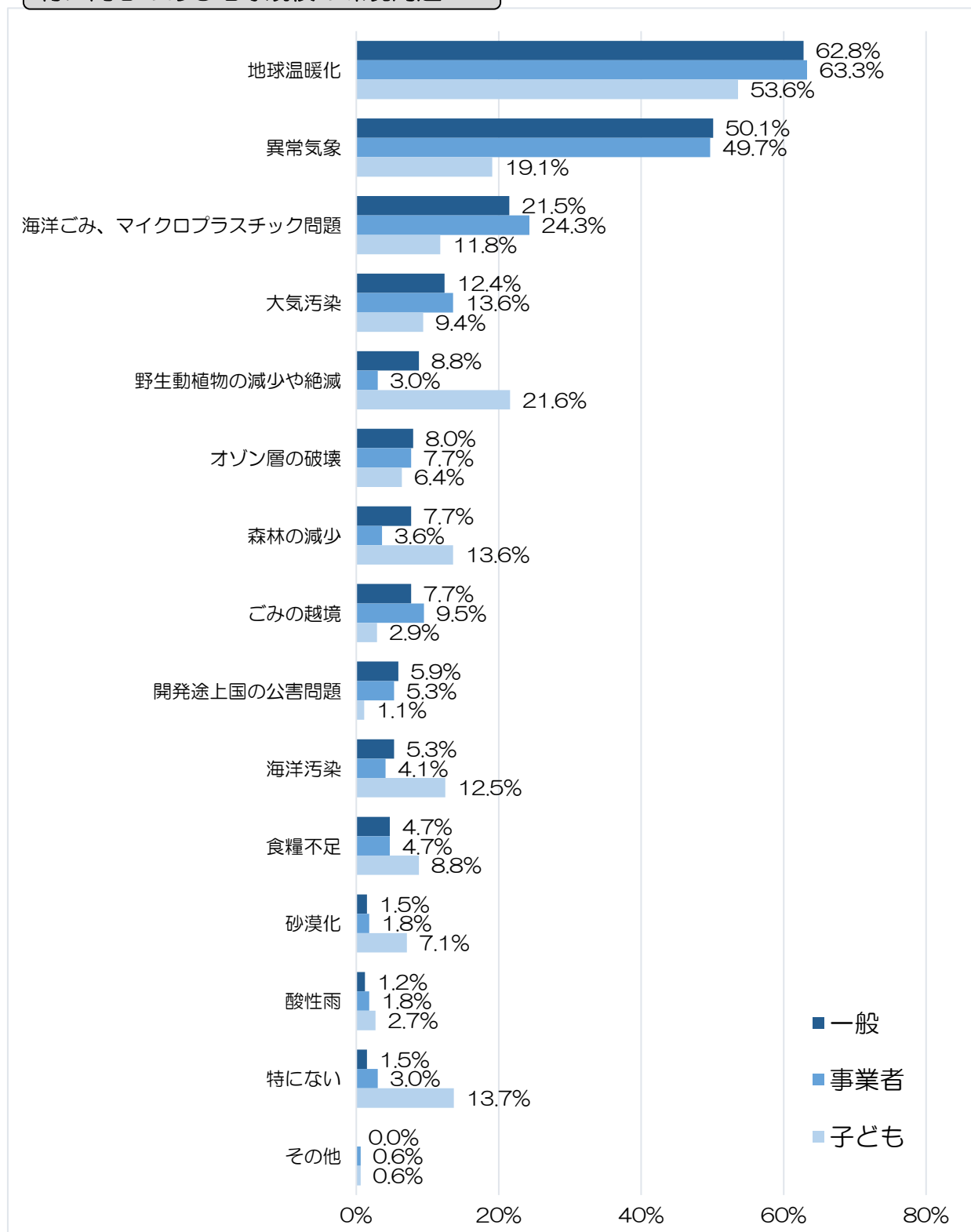
ア. 身近な環境問題としては、前回アンケート時と同様に「諏訪湖や河川の水質浄化」への関心が特に高く、多くの市民が問題意識を持っていることが伺えます。このほかには、「不法投棄・ポイ捨て」「プラスチック製品の削減」などに高い関心があります。また、事業者は「地球温暖化防止」、子どもは「ごみの減量・3Rの推進」に高い関心がある傾向です。

特に関心のある身近な環境問題



イ. 地球規模の環境問題としては、「地球温暖化*」に高い関心があり、前回アンケート時と同様の傾向です。また、「異常気象」については、前回に比べ、事業者の関心が大幅に高くなっています。近年話題となっている「海洋ごみ*、マイクロプラスチック*問題」にも比較的高い関心があります。

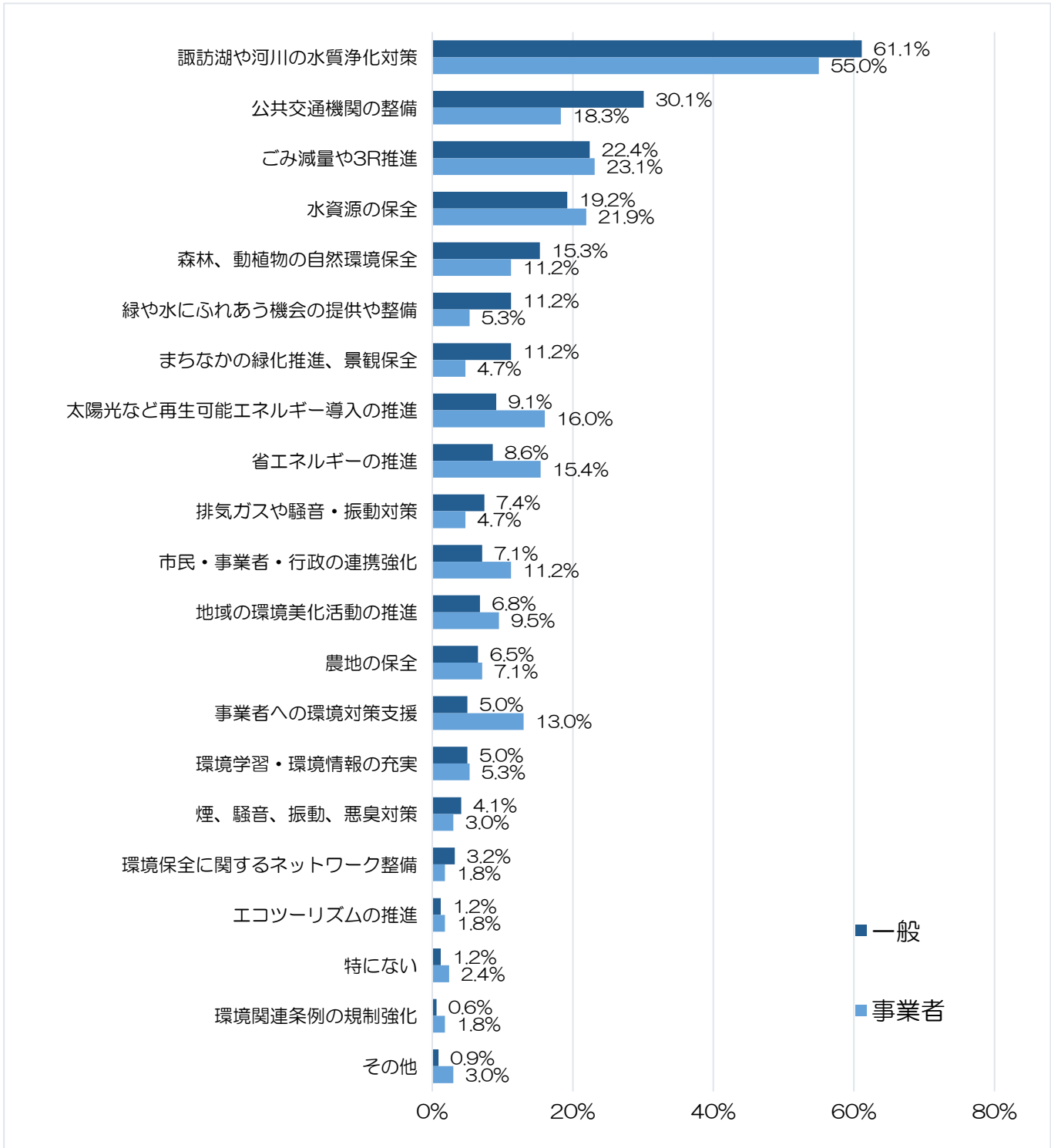
特に関心のある地球規模の環境問題



(2) 岡谷市への環境課題への取組の要望

優先的に取り組むべきこととして、「諏訪湖や河川の水質浄化対策」「公共交通機関の整備」「ごみ減量や3R*推進」「水資源の保全」などが望まれています。特に「諏訪湖や河川の水質浄化対策」は圧倒的に多く、また前回アンケート時に比べて「公共交通機関の整備」は回答の割合が大幅に伸びています。

環境を良くするために岡谷市が優先的に取り組むべきこと

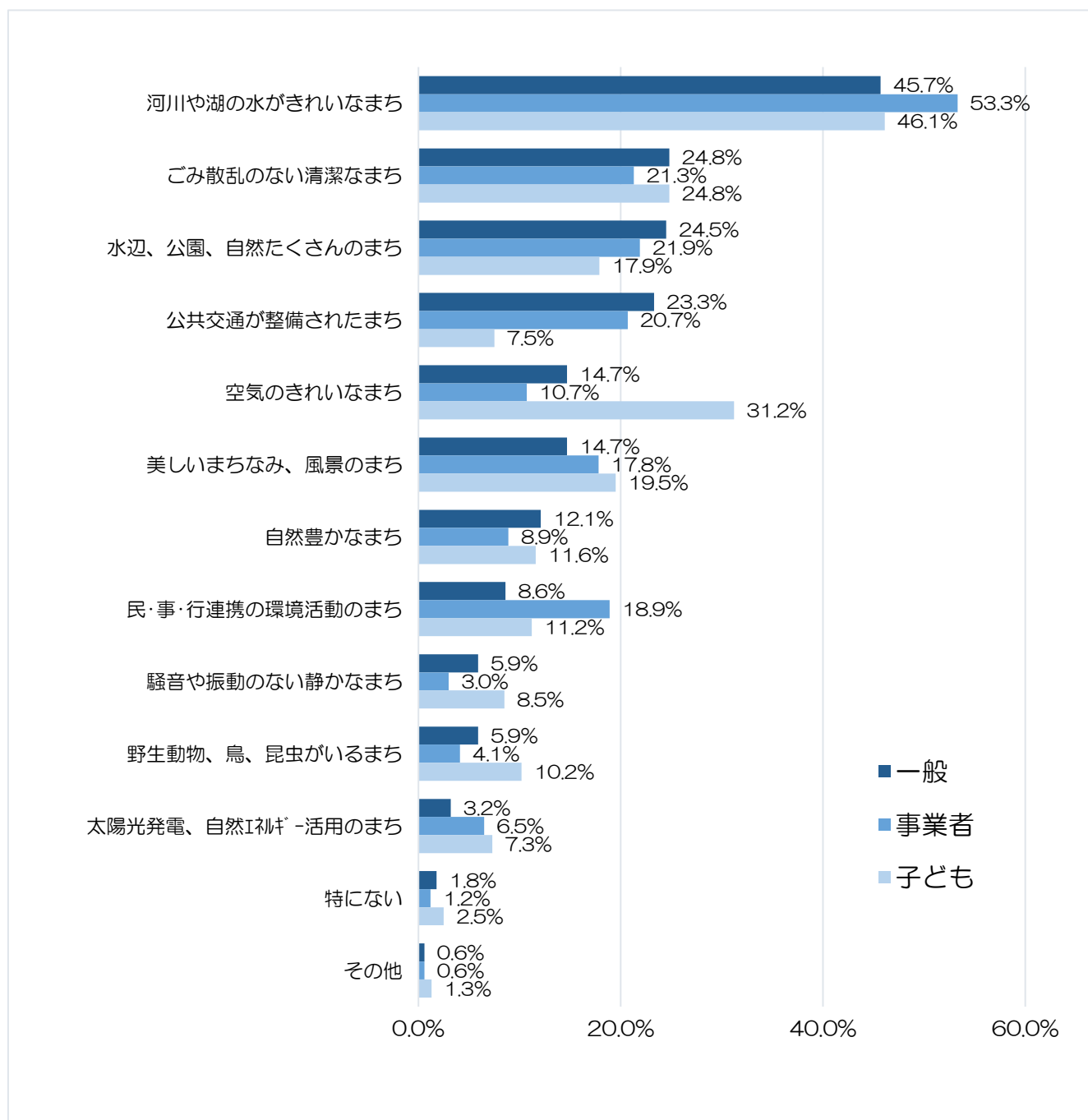


(3) 岡谷市の将来の環境について

「河川や湖のきれいなまち」を望む声が多く、次いで「ごみの散乱のない清潔なまち」「水辺や公園など自然とふれあえるまち」「公共交通機関の整備されたまち」などが望まれています。

前回アンケート時とほぼ同様の結果ですが、「岡谷が優先的に取り組むべきこと」の質問と同様に、「公共交通機関が整備されたまち」の項目が大幅に伸びています。また、子どもは空気のきれいなまちを望む割合が多いです。

将来の岡谷市がどのようなまちになることを望むか

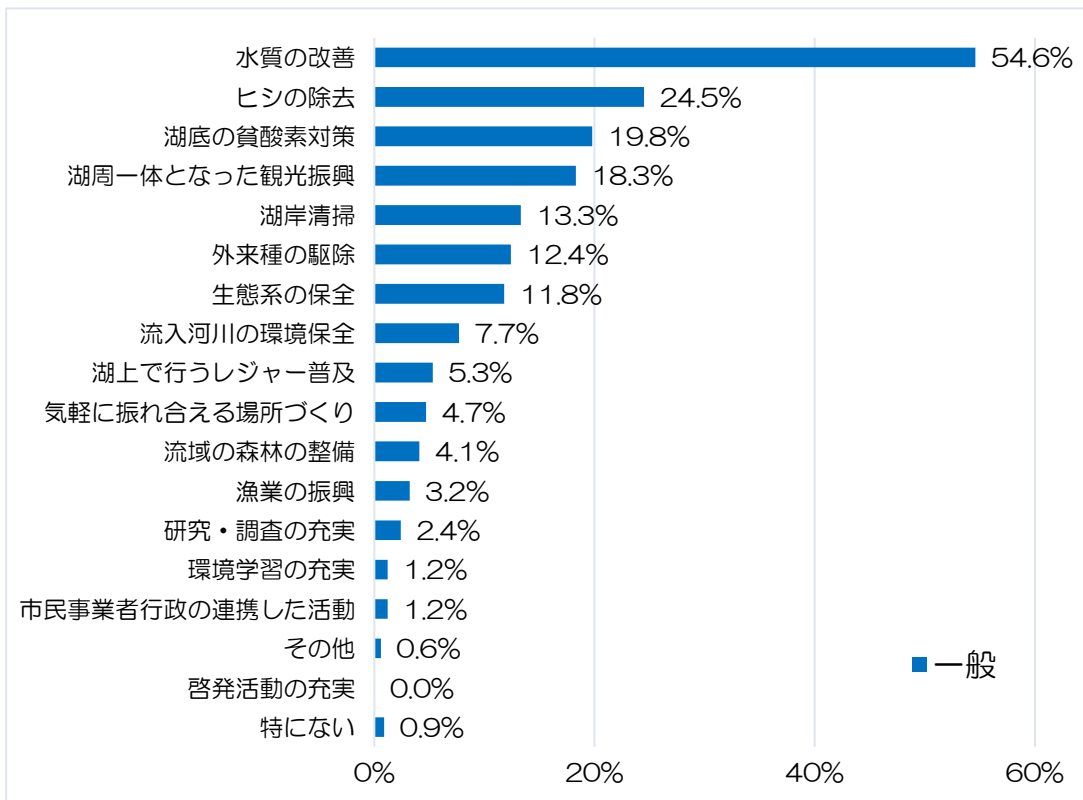


(4) 諏訪湖について

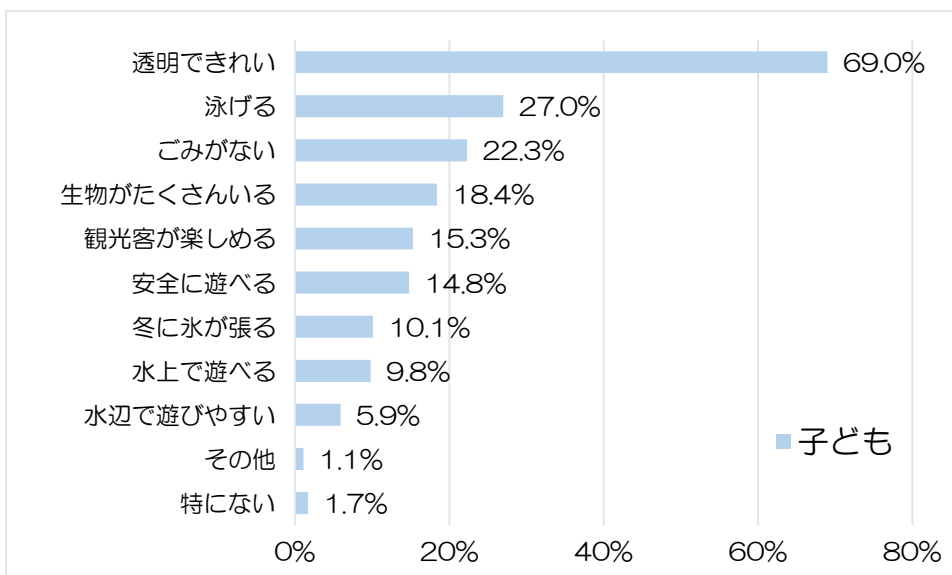
諏訪湖の環境保全・利活用について必要だと思うことは、「水質の改善」がもっとも多く、「ヒシの除去」「湖底の貧酸素*対策」「湖周一体となった観光振興」などにも多くの回答がありました。

また、将来どのような諏訪湖になってほしいかという質問に対しては「透明できれい」という回答が多く、次いで「泳げる」「ごみがない」という項目となり、諏訪湖の水質や環境の改善を求めている市民が多いことが伺えます。

諏訪湖の環境保全・利活用についてどのようなことが必要か



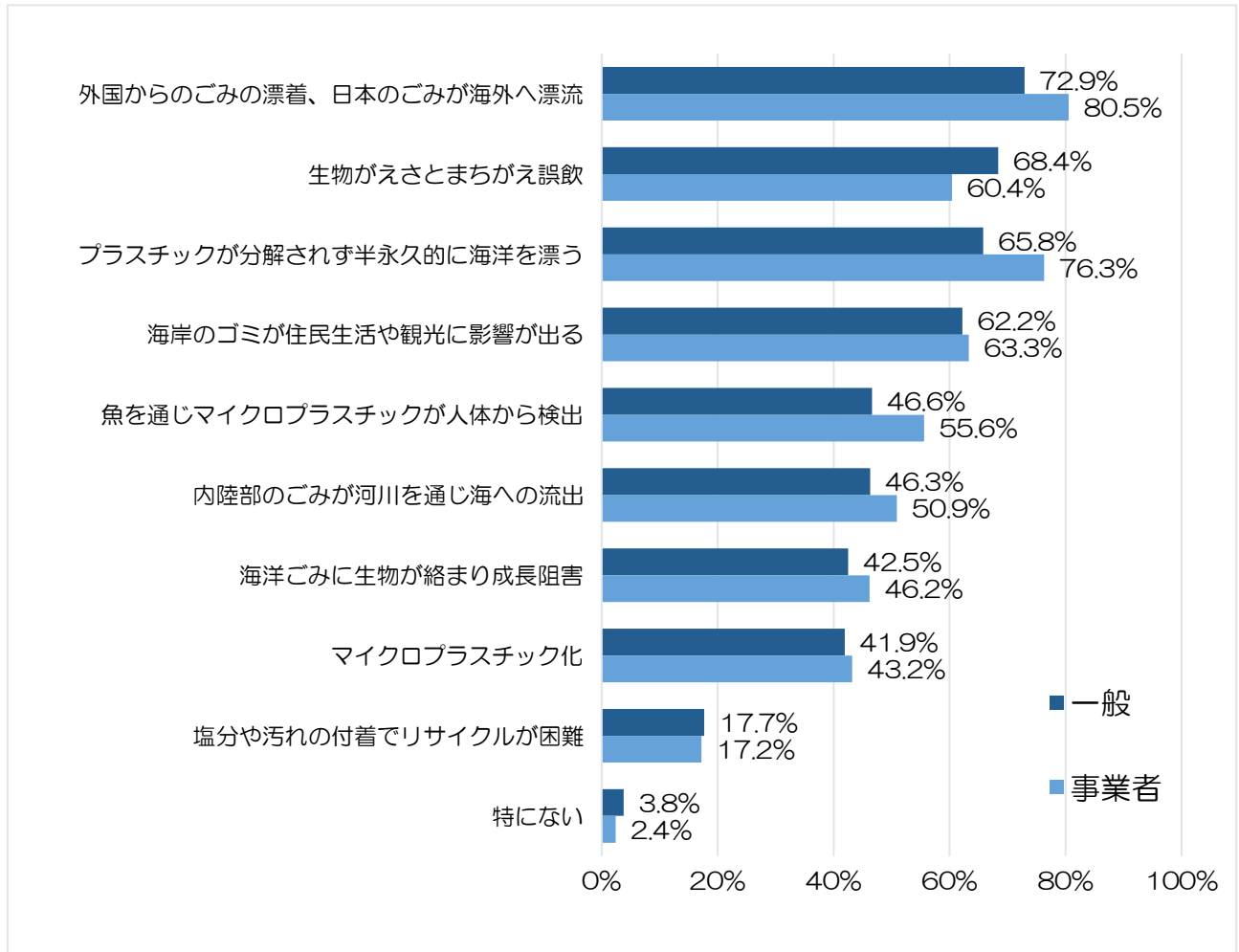
将来どのような諏訪湖になってほしいか



(5) 海洋ごみ*問題について

海洋ごみに対する意識調査では、内陸部である本市においても高い関心が伺えます。海洋ごみ問題に対する意識が浸透していると言えます。また、全体的には一般より事業者のほうが関心の高い傾向となり、より高い当事者意識を持っていることが伺えます。

海洋ごみの問題について知っていること



(6) まとめ

アンケート調査全体を通じ、諏訪湖や河川の水質浄化に対する要望、将来の姿として河川や湖のきれいなまちを望む声の多さなどから、多くの市民が諏訪湖や河川を身近に感じ、環境の改善を望んでいると思われます。このため、諏訪湖の水質浄化や環境改善のための施策が必要となります。

また、近年問題となっている海洋ごみ*問題について、内陸部である本市においても比較的高い傾向にあります。国際的に対策が必要となっている問題であり、本市でも海洋ごみ削減のための施策が必要となります。

ポイ捨てや不法投棄に関する意見、要望も多く、マナーやモラル向上のための施策などが必要となります。特に、子どもから通学路などでのごみやタバコのポイ捨てに対する不満の声は多く、子どもだけでなく、大人に対する環境保全意識の向上も重要です。